

中越地震

佐々木 絵理

ドン(何が)おこったんたろう。午後五時五十六分地震が発生しました。その時私はテレビを見ながら立っている所でした。照明が大きくゆれてつくえの上からは本などが落ちてきました。下からは「だいじょうぶ。」という声かしてきました。横からは「ベットの下のにもぐれ。」という声かしました。私はいそいで

でベットの下のにもぐりました。すこしゆれがおさまったら下におりました。かいだんをおいていると中で地震がきました。「おちる。」けれどおちませんでした。げんかんについたら手さぐりでサンダルをさがしていそいで歩いて外にでました。外にでて三十分くらいしたらお父さんが車庫から車をもってきてきました。その車の中に入りました。車に入ってから一時間くらいしたらお母さんが家の中からおむすびをつくる道具をもってきてました。ごはん

を小さいなべに入れてごまじおとラップをも、
 てきました。それからかぞく全員分のおおす
 びをつくってくれました。その時はおなかか
 すいていたのですごくおいしかったです。お
 おすびをたべてからねました。

三日目の朝にヘリコプターにのって長岡市に
 ひなんしました。ひなんして十日くらいたっ
 たらボランティアの人が来ました。さいし
 は何でこんな人がいるのと思っていきました。け
 れどボランティアの人が何かしてあそぼと声
 をかけてくれました。あそんでいくうちにた
 かがよくなってきました。ボランティアの人
 がいたからひなんじよせいかつをがんばれた
 のだと思えます。ボランティアの人にはすご
 くかんしゃしています。